

26PB-am226

多人数の薬学生が模擬患者とのロールプレイを実施する授業の試みとその評価
○福井 愛子¹, 半谷 眞七子¹, 亀井 浩行¹ (¹名城大薬)

【目的】薬学部 6 年制では、実務実習前に模擬患者 (SP) 参加型の共用試験が義務付けられているが、過密な授業カリキュラムのため多人数の学生全員が SP とロールプレイを経験する回数は限られる。今回、3 年次に開講される「臨床コミュニケーション」において、患者に配慮した態度・話し方を養うため、学生全員が一人ずつ SP とロールプレイを実施する演習を試み、学生間と SP による評価の妥当性について検討した。【方法】3 年生 230 名を 90 分 4 回に分けて実施した。学生を 5~6 名の班 (計 39 班) に分け、1 名ずつ順番に SP と対応し、対応学生以外はロールプレイを観察した。SP のシナリオは 2 種類用意し、ロールプレイ毎に SP が各班を移動した。薬剤師役の学生の対応力を 3 者で評価し (対応学生による自己評価、観察学生による他己評価、SP の対応学生に対する評価)、その違いについて検討した。【結果】参加学生は 219 名、SP は 13 名であり、評価の解析には記入不備のない 192 名 (87.7%) を用いた。評価表の総得点は、自己評価と他己評価、他己評価と SP 評価に正の相関を認めたが、自己評価と SP 評価に相関は認めなかった。学生の対応順による優劣を検討したが、差は認めなかった。学生評価表の「患者に対する姿勢」7 項目と「情報収集」5 項目に分けて解析したところ、他己評価の姿勢と SP 評価に正の相関を認めたが、他己評価の情報収集と SP 評価に相関を認めなかった。【考察】自己評価と他己評価に相関を認めたことから、本学の 3 年生は患者に対する姿勢と薬剤師の職能について、一定の水準で評価する能力を備えていると考えられた。薬学生は薬学的視点に目を向けがちだが、他己評価の姿勢と SP 評価に相関を認めたことから、観察学生は一般市民と同じ目線で他学生を観察し、患者に配慮した態度・話し方について評価が可能であると考えられた。